



## 矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監  
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



## 米国ニューメキシコ州での麻疹のアウトブレイク

米国ニューメキシコ州で麻疹のアウトブレイクが発生し、CDCがその全容を公開しているので紹介する (1)。

### ■はじめに

- 麻疹は極めて感染力が強い呼吸器ウイルス疾患であり、大規模な流行を招くだけでなく、重篤な合併症や入院、最悪の場合は死に至る危険性がある重大な感染症である。
- 2025年に米国ニューメキシコ州で発生した事例では、テキサス州での流行が隣接する郡へと波及し、最終的に99人の感染者が確認されるという同州にとって1996年以来となる大規模な事態となった。
- 麻疹は2000年に米国で排除宣言が出されたが、2025年には全米で1992年以来最大の発症数を記録しており、一度排除された地域であっても常に再流行のリスクにさらされていることを再認識する必要がある。

### ■臨床的特徴と診断へのアプローチ

- 麻疹の潜伏期間は通常11日から12日程度であるが、曝露から発症までの範囲は7日から21日と幅があるため、接触者の健康観察期間の設定には注意を要する。
- 初期症状は発熱、倦怠感、咳嗽、鼻汁、結膜炎といったカタル症状から始まり、その数日後に口腔粘膜にコプリック斑が出現した後、全身に斑状丘疹状の皮疹が広がっていくのが典型である。
- MMR（麻疹・おたふくかぜ・風疹）ワクチンの2回接種は、麻疹の発症を予防する上で約97%という極めて高い有効性を持っており、集団免疫を維持するための最も強力な武器である。

### ■ニューメキシコ州におけるアウトブレイク

- 2025年2月から8月にかけて確認された99人の症例のうち、約3分の2はリー郡居住者であった。リー郡はテキサス州と隣接し、州境を越えた人の往来が頻繁な地域である。
- 感染者の年齢中央値は20歳であり、生後4か月の乳児から62歳の高齢者まで幅広い年齢層に及んでいたが、特に成人が全体の約半数を占めていた。
- ワクチン接種歴については、症例の85.8%が未接種（57.6%）または接種歴不明（28.3%）であり、免疫の空白地帯が感染拡大の温床となっていたことが明確に示されている。
- 入院を要した患者は7人であり、その内訳は未接種の小児5人、未接種の成人1人、接種歴不明の成人1人であった。さらにワクチン未接種の成人1人の死亡が報告されており、本疾患が重篤な転帰を来し得ることが示されている。
- 学校内でのアウトブレイクが報告されなかった理由として、地域の学校に通う小児のワクチン1回以上の接種率が94%以上と極めて高かったことが関係している可能性がある。

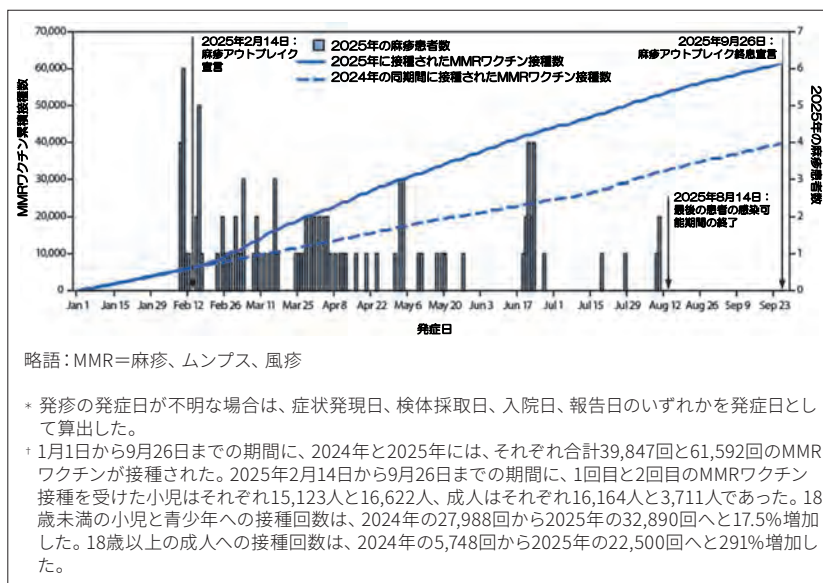
## ■公衆衛生上の対応

- ニューメキシコ州保健局は、広大で農村部が多いという地理的制約を克服するため、ウェブサイトの構築や電話ヘルプラインの設置、多言語による情報提供など、多角的なコミュニケーション戦略を展開した。
- 電話ヘルプラインでは、相談者のワクチン接種歴の照会や、接触者への曝露通知、近隣の接種場所の案内などを行い、約7カ月間で2,000件を超える相談に対応することで住民の不安解消と受診勧奨に努めた。
- 州保健局は、11の郡で計60回の移動式ワクチンクリニックを開催し、学校や公共施設、矯正施設などのコミュニティ拠点に直接赴くことで、ワクチンへのアクセスを劇的に向上させた。
- 主要な流行地であるリー郡を含む麻疹曝露リスクの高い地域では、生後6か月から11か月の乳児に対しても早期接種を推奨するなどの柔軟な対応が取られ、感染リスクの高い層を優先的に保護するための戦略的な介入が実施された。

## ■ワクチン接種促進の成果

- アウトブレイクへの対応として実施された広報活動とアクセス改善により、2025年1月から9月までのMMRワクチンの総接種数は、前年同期比で55%も増加した。
- 特に成人へのワクチン接種数は、2024年の5,748回から2025年には22,500回へと約291%の驚異的な伸びを見せており、アウトブレイクへの危機感が成人の免疫獲得行動を強く後押しした。
- 実際、2月14日のアウトブレイク宣言を境にMMRワクチンの週次投与数が急増しており、特に第一報から2週間以内に州全域で前年の水準を上回る接種が行われたことが示されている(図)。また、累積投与数の曲線は、2025年分が2024年分を大きく引き離して推移しており、公的な介入と正確な情報提供がいに迅速に住民の行動変容を促すかを視覚的に証明している。
- 地域別のデータにおいても、最初の症例が報告された翌週には、南西地域や都市部でワクチン接種数が約8割も増加しており、脅威が身近に迫るタイミングでの介入が極めて効果的であることが確認された。

図.発症日別の麻疹症例数(検査確定)\*、および麻疹・ムンプス・風疹混合ワクチンの累計接種回数ーニューメキシコ州(2024年および2025年)†



## ■今後の展望

- 麻疹の制御には、集団内での高い2回接種率の維持が不可欠である。医療従事者は日常診療において患者の接種歴を常に確認し、未接種者への積極的な勧奨を継続する必要がある。
- ニューメキシコ州の事例が示すように、広大な地域であってもITツールや移動式クリニックを組み合わせた多角的なアプローチを用いることで、流行を効果的に抑制し、ワクチン接種率を向上させることが可能である。
- 成人の感染者が多かったという事実は、小児期に接種機会を逃した世代や、1回接種のみの人々への追加接種の重要性を浮き彫りにしている。
- 臨床現場においては、カタル症状を呈する患者の旅行歴や居住地の流行状況を的確に把握し、疑わしい場合には迅速な隔離と保健所への報告を行うことが、二次感染を最小限に抑えるための鉄則である。
- 最終的にこのアウトブレイクは、最後の感染者の感染可能期間終了から2回の潜伏期間(計42日間)にわたり新規症例が発生しなかったことを確認した上で、9月26日に終息が宣言された。

[文献]

- Stanislowski E, Romero A, Holzinger N, et al. Measles Outbreak — New Mexico, 2025. MMWR Morb Mortal Wkly Rep 2026;75:111–115. DOI: <http://dx.doi.org/10.15585/mmwr.mm7509a1>.

株式会社メディコン  
カスタマーサービス [www.bdj.co.jp/s/cs/](http://www.bdj.co.jp/s/cs/)

[bd.com/jp/](http://bd.com/jp/)

BD, the BD Logo and all other trademarks are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates.  
© 2026 BD. All rights reserved.